

5-4 矢島都市計画区域

旧矢島町の矢島都市計画区域約 450ha を対象として、地区別の検討を行います。

1) 区域の現況と課題

①現況

1. 概況

- ・由利高原鉄道の矢島駅を中心に西部の丘陵地と北東部の国道 108 号や子吉川を外郭としてコンパクトな市外地が形成されています。城下町として町が形成されてきたため西部の城跡付近に役場・学校などの公共施設が立地し、その周辺に商店街や住宅地が広がってきましたが、近年は国道沿いに商業施設などが立地する傾向を示しています。

2. 面積

- ・地域の可住地面積は 349.4ha で、これは都市計画区域面積の約 78%になります。
- ・また、本都市計画区域は、区域区分および用途地域の指定はありません。

3. 区域内人口・人口密度

- ・平成 17 年の区域内人口は 3,533 人で、矢島地域全体の人口 5,785 人(H17 国調)の約 61%が都市計画区域内に居住しています。
- ・平成 12 から 17 年にかけて、区域内の人口は 3,803 人から 3,533 人へと 270 人(-7.1%)の減少となっています。矢島地域全体では、6246 人から 5,785 人へと 7.3%の減少となっており、平成 12 年から 17 年にかけての 5 年間では、都市計画区域の内側・外側とも同水準の人口減少傾向が見られます。
- ・平成 17 年の区域内人口密度は 10.1 人/ha で、都市計画区域の人口密度としては非常に低密度ですが、農地と市街地が共存している影響と思われます。

4. 市街化の動向

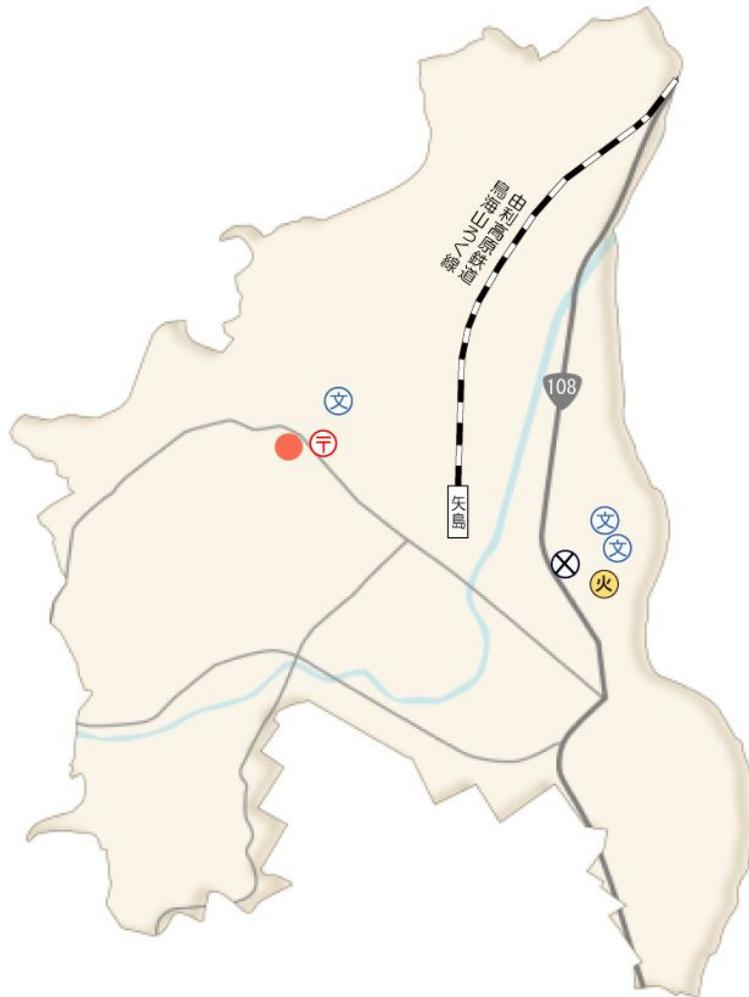
- ・過去 5 ヶ年(平成 13~17)の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で 51 件あり、住居系が約 45%と最も多くの割合を占めていますが、工業系が約 29%を占めているのが際立っています。

地区全体	51 件	—
住宅	23 件	45.1 %
商業	5 件	9.8 %
工業	15 件	29.4 %
平均建ぺい率	14.0 %	—
平均容積率	28.0 %	—

5. 地域資源

- ・城下町としての歴史に培われた多くの地域資源に恵まれています。
- ・祭り：八幡神社祭典大名行列
- ・重要文化財（建造物）：土田家住宅
- ・登録有形文化財（建造物）：金嶺山龍源寺本堂・八森苑・大井家住宅母屋
- ・秋田県指定文化財（建造物）：薬師堂宮殿残闕 など

6. 区域の概要



0 100 500 1,000

注) 矢島都市計画区域には、用途地域及び都市計画道路の指定はありません。

施設凡例		道路・鉄道	
●	役場	—	国道
●	総合支所	—	主要地方道
〒	郵便局	—	鉄道
校	学校		
交	警察署		
火	消防署		
+	病院		
〇	官公庁		

②区域の整備課題

1. 都市構造

- ・矢島駅の南側をとおる主要地方道・仁賀保矢島館合線沿線の七日町地区に商店街が形成され、地域の人々の日常生活サービスを支えています。しかし、近年はモータリゼーションの進展などによる買物圏の広域化や沿道型商業施設の増加により、他都市と同様に中心商店街の空洞化が進んでおり、地域コミュニティを持続させるために必要な商業機能の維持・強化が課題となっています。

2. 土地利用

- ・矢島都市計画区域は、区域区分および用途地域の指定がありませんが、町が形成されてきた歴史的経緯から、八森城址のある家中地区は武家屋敷など昔ながらの歴史的街並みを残す住宅地が形成され、その周りを取り囲むように既存住宅地が広がっており、さらに市街地南側には新興住宅地が形成されており、歴史の流れの中で土地利用の整序化が行われてきました。
- ・しかし、既存住宅地については狭小道路や行き止まり道路なども多く、防災性の向上が課題となっています。また、用途地域指定がないため工場・倉庫などと住宅が混在している地区もあり、居住環境の改善が課題となっています。
- ・用途地域の指定はないが、国道108号沿いに比較的大規模な工場が立地し、元町地区では農工団地が整備されています。国道108号沿いの元町地区を工業地として位置づけ、新規企業の立地誘導や市街地に散在している小規模工場の移転促進を図ることが課題となります。
- ・本地区の西側および南側を取り囲む段丘樹林帯は、身近な緑のふちどりとなって本区域を特徴づける印象的な景観を形成しています。これら良好な緑資源を将来にわたり保全するための風致地区指定などの制度・システムの検討が課題です。
- ・中高連携校の開校に伴い、現在未利用地となっている中学校・高校跡地について、その有効な活用方法の検討が課題です。

3. 交通体系

- ・本区域では、広域幹線道路である国道108号が北東部を貫き、これに主要地方道・象潟矢島線、仁賀保矢島館合線が接続して広域的な道路ネットワークを形成していますが、これらの路線の交通安全性と円滑性の向上が課題となっています。特に区域の骨格である国道108号の前杉バイパス整備は、主要幹線道路の安全性と走行性向上のための最優先課題となっています。
- ・市街地内道路では、狭小道路や行き止まり道路が多く、歩道の整備も十分ではありません。このため、防災面や高齢化社会の進展に対応し、安全で安心できる市街地内道路ネットワークの充実や歩行者空間の確保などが課題となります。

市民の声：矢島都市計画区域

～市民意向調査より～

●交通と文化コミュニティ以外の項目は、満足度が低く、その中で重要度が高いのは、「市街地整備」「都市環境」であるという意向が示されています。

●個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。

・交通分野

幹線道路の整備、交通渋滞緩和と交通の円滑化

・産業分野

商店街の活性化

・市街地整備分野

高齢者向け住宅の整備、商業拠点の形成、歩道等のバリアフリー化

・都市環境分野

水質保全、歩道・通学路での安全性の確保、ごみ不法投棄対策、クリーンエネルギーの活用

・土地利用分野

森林資源の保全・活用、新規企業の誘致

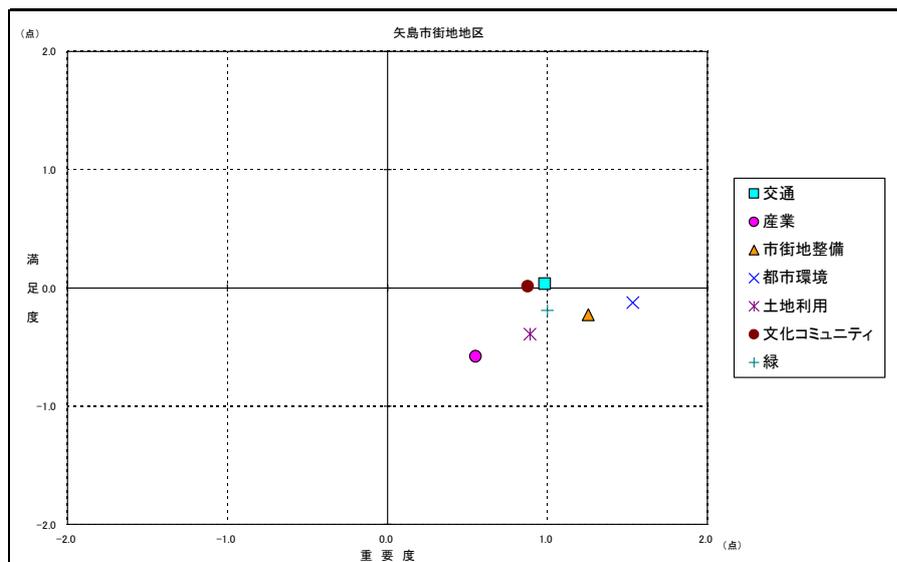
・文化・コミュニティ分野

美化活動等の環境教育、学校施設等の教育環境の充実

・緑分野

沿岸緑地の保護・保全、親水公園、河川緑地等の河川環境の整備

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号14 矢島市街地地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 区域の目標とテーマ

①矢島都市計画区域の目標

本区域は、子吉川上流部にコンパクトな市街地を形成し、周囲には鳥海山麓の自然に囲まれた田園風景が広がっています。また、かつては生駒藩の城下町として栄えた面影をしのぼせる武家屋敷、寺社、石積みの水路など歴史的街並みが残されています。

このように自然環境と調和した歴史・文化のまちとして適切な保全と整備により、潤いのある生活環境の形成を図るとともに、鳥海国定公園の北の玄関口、由利高原鉄道のターミナル駅のあるまちとして、観光拠点および地域サービス拠点として交流とにぎわいのあるまちづくりをめざします。

②テーマ

矢島都市計画区域のテーマを以下のように設定します。

鳥海山の麓、自然と歴史に包まれた交流文化都市の形成

3) 区域の整備方針と整備構想

①区域の整備方針

矢島都市計画区域は、以下の5つのゾーンで構成します。

●商業ゾーン

・既存商業地

主要地方道・仁賀保矢島館合線沿線の七日町地区に形成された商店街で、これまで地域の人々の日常生活を支えてきたが、近年空洞化が進んでいるため、商業機能の維持・強化を図ります。

・駅前商業地

駅前地区を地域内外の人々が集い交流する場として、商業、サービス、情報交流などの多様な機能が集積するにぎわいのある商業拠点の形成をめざします。

・沿道商業地

国道108号沿道の城内地区は、地域のゲートウェイ機能を持った沿道商業地として、計画的な立地誘導を図ります。

●工業ゾーン

- ・国道108号沿道の元町地区を工業ゾーンと位置づけ、新規企業の立地誘導と市街地内に散在する小規模工場の移転促進を図ります。

●住宅ゾーン

- ・歴史的街並みを残す住宅地、既存住宅地、新興住宅地が歴史的流れの中で形成されており、地区状況に応じた良好な居住環境の形成を図ります。

●優良農地ゾーン

- ・丘陵の緑に囲まれた田園景観は本区域を特徴づけるものであり、まとまりのある優良農地は都市的土地利用を抑制し、今後とも保全を図ります。

●緑の保全ゾーン

- ・市街地西側および南側を囲む段丘樹林帯は、鳥海国定公園の北の玄関口にふさわしい緑の景観を形成しており、緑の景観保全地区として位置づけ、将来とも保全を図ります。

●公共福祉ゾーン

- ・地域の中心部に位置する中学校・高校跡地は、地域住民の憩いの場の創出など、地域活性化に資する空間として有効な活用を図ります。

②区域整備の重点目標

●居住環境の整備・改善

- ・歴史的街並みを残す住宅地の周辺を取り囲むように広がっている既存住宅地では、狭小道路や行き止まり道路などが多く、用途地域の指定がされていないこともあり、小規模な工場・倉庫が混在している地区もあります。
- ・防災性の向上や高齢化社会への対応などの面から、都市内道路ネットワークの整備や安全な歩行者空間の整備など、居住環境の整備・改善に努めます。

●商業地の再生と商業・観光拠点の形成

- ・地域の生活を支えてきた七日町地区の商店街は、車社会の進展により買物客が他地域に流れ、求心力の低下・空洞化が進行しています。単に買物をするだけでなく、地域の人々が行き交い会話する交流の場としての商業環境の整備を図り商店街の再生・強化に努めます。
- ・駅前地区は、鳥海国定公園の北の玄関口、由利高原鉄道のターミナル駅として地域内外の人々が集い交流する場として、商業・観光・情報・交流などの多様な機能が集積するにぎわいのある商業・観光拠点の形成をめざします。

●優良農地および緑の保全

- ・歴史と文化あふれる本区域は、市街地周辺の豊かな田園風景と清流子吉川および市街地を包むような丘陵地の緑のふちどりにより特徴ある景観が形成されています。自然と田園景観、町の歴史と文化が融合した恵まれた環境や景観を地域の大切な資産として保全するとともに、自然環境学習の場や自然とのふれあいの場として環境整備を図ります。

これら区域整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容を踏まえ、次の事業を行う方針です。

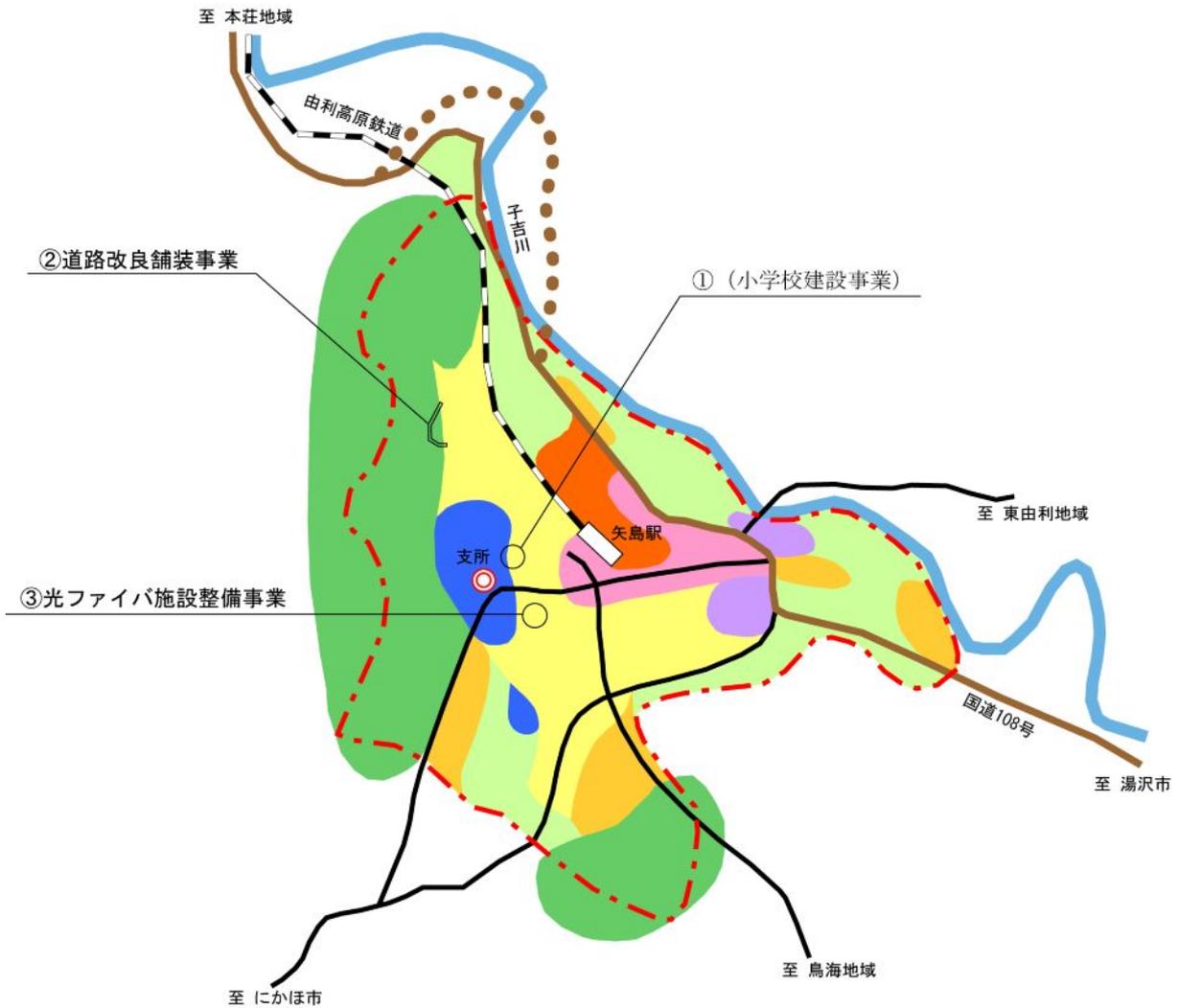
番号	事業名	事業の緊急性
①	小学校建設事業	普通
②	市道小田中通線 道路改良舗装事業	普通
③	光ファイバ施設整備事業	普通

(注)・明朝体で示すプロジェクトは、都市計画との直接的関係が低いもの。

4) 整備構想

矢島都市計画区域の整備構想図を以下に示します。

■ 矢島都市計画区域 整備構想図



(注) 明朝体で示すプロジェクトは、都市計画との直接的関係が低いもの

－ 凡例 －					
	地区境界		集落環境整備ゾーン		自然環境保全ゾーン
	商業活用ゾーン		タウンセンターゾーン		主要幹線道路
	工業誘導ゾーン		公共・福祉ゾーン		主要幹線道路 (整備構想区間)
	住環境整備ゾーン		優良農地保全ゾーン		幹線道路

5-5 西目地区

「平成 18 年度 秋田県都市計画指導調査 由利本荘市」における「都市計画区域の解析結果」より、西目地区は、『本荘都市計画区域の拡大によって一体の都市としての整備・開発および保全を図る地域と考える。』とされています。西目地域のうち、この調査において拡大想定区域と設定された西目地区（約 750ha）について検討を行います。

1) 地区の現況と課題

①現況

1. 概況

- ・西目地区は、本荘都市計画区域の南側に位置し、その境界部は丘陵となっています。海岸線とほぼ並行に地域内を斜めに国道 7 号と JR 羽越本線が走り、この国道と鉄道を軸に市街地が形成されています。旧西目町の中心市街地にあたる沼田地区には西目駅を中心に商業、業務、住宅、公共公益施設などが集積し、都市的な土地利用が行われています。西目地区で特筆すべきは、本市全体の人口が減少する中で人口増加傾向を示していることです。

2. 面積

- ・拡大想定地区約 750ha のうち、可住地面積は 532.4ha で、これは想定区域面積の約 71% であり、その他の多くは森林となっています。

3. 地域内人口・人口密度

- ・平成 17 年の地区内人口は 4,649 人で、平成 12 から 17 年にかけて、地区内の人口は 4,550 人から 4,649 人へと 99 人（+2.2%）と増加となっています。
- ・平成 17 年の地区内人口密度は 8.7 人/ha で、都市計画区域として拡大する地区の人口密度としては非常に低密度であると言えますが、区域内の農地面積の影響が大きいと考えられ、西目駅周辺などでは 20~40 人/ha と比較的密度の高い地区が形成されています。

4. 市街化の動向

- ・過去 5 ヶ年（平成 13~17）の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で 194 件で、そのうち住居系が約 93% と大半を占めています。

地域全体	194 件	—
住宅	181 件	93.3 %
商業	9 件	4.6 %
工業	4 件	2.1 %

5. 地域資源

- ・公園：カントリーパーク 祭り：ひまわりまつり、菜の花まつり
- ・観光施設：ハーブワールド A K I T A、
カントリーパーク、道の駅にしめ
- ・海水浴場：西目海水浴場

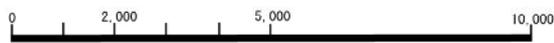
6. 地域の概要

施設凡例	
●	役場
●	総合支所
〒	郵便局
校	学校
警	警察署
消	消防署
病	病院
官	官公庁

道路・鉄道	
—	国道
—	主要地方道
—	鉄道



注) 拡大想定区域の具体的範囲が、公表されていないため西目地域全域を示す。地域全体面積 3,806haのうち、面的な市街地が広がる西目駅周辺などを含む地区約750haが拡大地区と推測される。(全体の約20%)



②地区の整備課題

1. 都市構造

- 地区を斜めに貫く国道7号とJR羽越本線を都市軸として市街地が形成され、西目駅を中心に公共公益施設、商業、業務、住宅などが集積し、拠点性の高いまちづくりが進められています。都市構造面では、都市計画区域の拡大範囲設定と境界部に丘陵地がある本荘地域との連携強化が課題としてあげられます。

2. 土地利用

- 人口増加に伴う都市的土地利用の拡大が進んでいるが、一部に農地転用によるミニ開発的宅地化も見られることから、都市計画的なコントロールの検討が課題です。また、都市計画区域の拡大に併せ、都市的土地利用を促進する地区と抑制し、農地・丘陵地などの保全を図る地区との検討も課題となります。

3. 交通体系

- 地域間などを結ぶ広域的な交通は、大半が国道7号に依存しているため、交通渋滞の発生が見られます。市民意向調査結果からも、「幹線道路の整備」と「交通渋滞緩和と交通の円滑化」が課題としてあげられており、幹線道路の早期整備が望まれています。

市民の声：西目地区

～市民意向調査より～

- 全体として、全ての項目に対して満足度が低く、その中でも重要度が高いのは「市街地整備」と「都市環境」であるという意向が示されています。
- 個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。

- ・交通分野

幹線道路の整備、交通渋滞緩和と交通の円滑化

- ・市街地整備分野

公営住宅の整備、歩道等のバリアフリー化

- ・都市環境分野

ガードレール・道路照明等の交通安全施設の整備、ごみ不法投棄対策

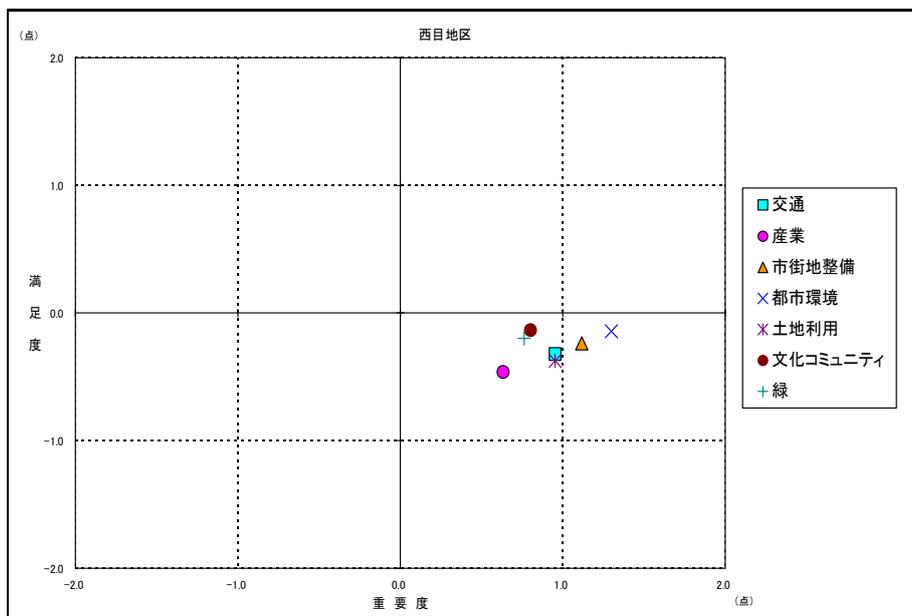
- ・土地利用分野

新規企業の誘致

- ・文化・コミュニティ分野

学校施設等の教育環境の充実、図書館等の施設の充実

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号13 西目地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 地区の目標とテーマ

①西目地区の目標

本地域は、J R羽越本線と国道7号の交通軸を活かした市街地形成が行われ、西目駅を中心とする拠点性の高いまちづくりが進められています。西目地区と本荘都市計画区域との間には一部丘陵を抱えるものの人口定着、交通網の連携による一体的な市街地形成が可能と思われます。本荘都市計画区域の拡大により、活力ある新たな定住拠点の形成を目標とします。

②テーマ

西目地区のテーマを以下のように設定します。

活力と若さあふれる定住拠点の創出

3) 地区の整備方針と整備構想

①地区の整備方針

西目地区（拡大想定区域約750ha）は、以下の5つのゾーンで構成します。

●地域拠点ゾーン

- ・西目駅周辺は、公共公益、商業・業務、居住などの機能が集積し、拠点性の高いまちづくりが進められています。地域の人々が集う魅力・求心力のある地域拠点の形成を図ります。

●居住環境整備ゾーン

- ・西目駅の北側一帯には、良好な居住環境の住宅市街地が形成されており、都市軸である国道7号沿いには北部の海士剥地区や南部の出戸地区にまとまりのある集落や住宅地が形成されています。これらの居住環境の維持・増進とともに、新たな定住拠点として良好な居住環境の宅地整備を図ります。

●沿道活用ゾーン

- ・都市軸を形成する国道7号沿いに市街地が形成されており、西目駅に近い沿道ゾーンは、沿道型商業施設や業務施設などの立地誘導を図り、有効利用を促進します。

●優良農地保全ゾーン

- ・西目駅の南側に広がる優良農地は、保全を図ります。

●自然環境保全ゾーン

- ・現在の由利本荘市都市計画区域との境界部の丘陵や海岸部の防風防砂林などは、都市を守りゆとりと安らぎを与える保全ゾーンとします。

②地区整備の重点目標

●良好な居住環境を有する新たな定住拠点の整備

- ・拡大想定区域である本地区約 750ha の人口は、全市的な人口減少下にも関わらず、平成 13～17 年の 5 ヶ年で 2% の増加を示しており、国道 7 号を軸に新たな住宅地が形成されるなど、都市的土地利用の拡大が進んでいます。
- ・本地区は、由利本荘市中心市街地や隣接するにかほ市のいずれにもアクセス利便性が高いため、由利本荘市都市計画区域の拡大に伴い良好な居住環境を有する住宅地の供給、定住拠点の整備を図ることを目標とします。

●魅力ある地域拠点の形成

- ・西目駅周辺は、西目総合支所や公民館などの公益機能や商業・業務機能、居住機能、診療所・クリニックなどの医療機能など多くの機能が集積し、拠点性の高いまちづくりが進められています。これらを推進するとともに、不足している文化・交流機能、娯楽機能などを整備し、地域の人々が集う魅力ある地域拠点の形成を目標とします。

●優良農地および緑の保全

- ・都市的土地利用が拡大している本地区ですが、由利本荘市都市計画区域との境界部の丘陵や海岸部の防風防砂林および西目駅の南側に広がる優良農地は、都市にゆとりとやすらぎを与える役割を果たしており、今後も保全を図ります。

これら区域整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容を踏まえ、次の事業を行う方針です。

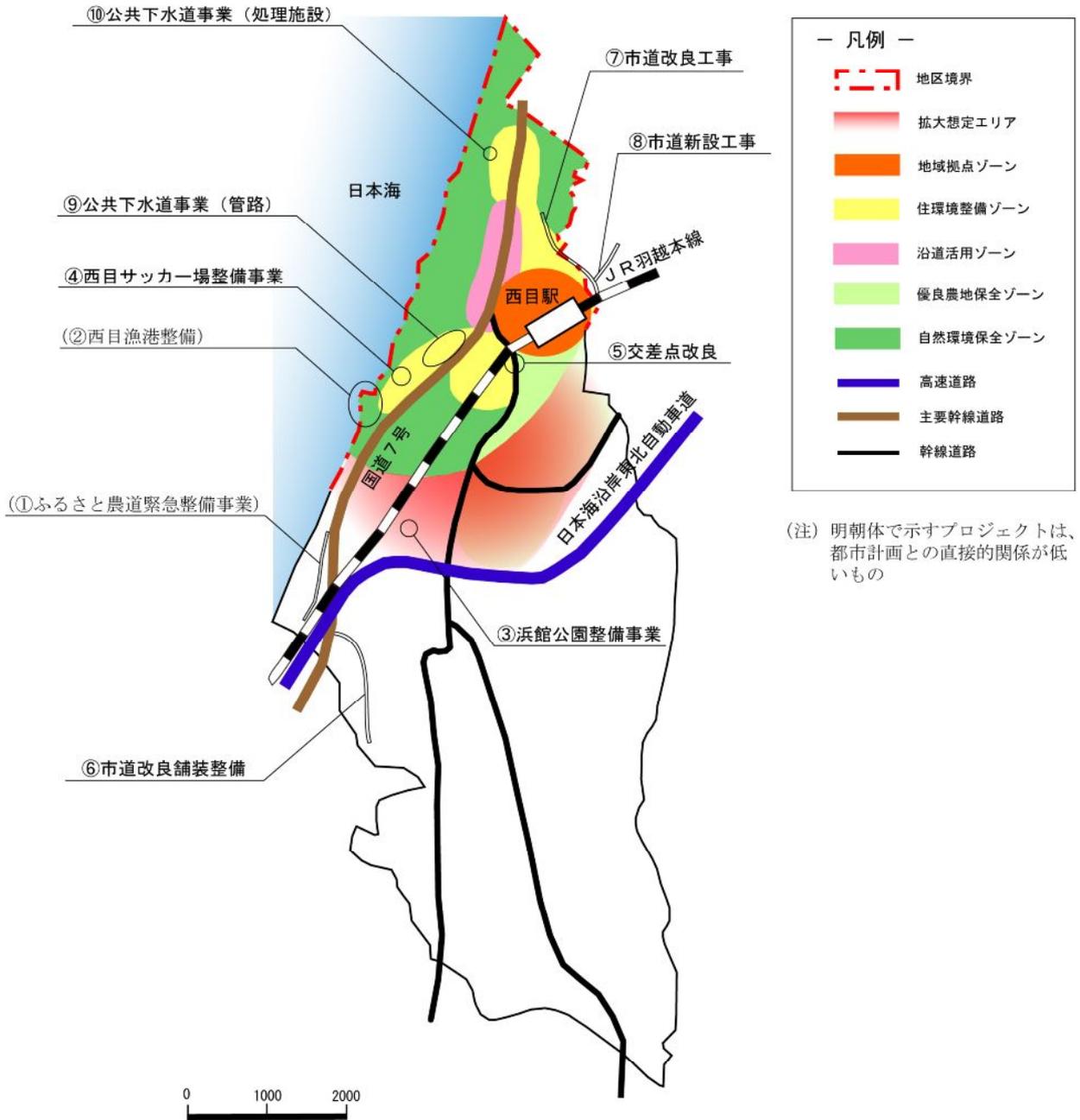
番号	事業名	事業の緊急性
①	ふるさと農道緊急整備事業 猿田	普通
②	西目漁港整備	普通
③	浜館公園整備事業	普通
④	西目サッカー場整備事業	普通
⑤	市道西日本荘線 交差点改良	普通
⑥	市道孫七山猿田線 道路改良舗装事業	普通
⑦	市道西日本荘線 道路改良工事	普通
⑧	市道新道下藤崎台幹線 1 号 新設事業	普通
⑨	西目地区特定環境保全公共下水道事業（管路）	普通
⑩	” （処理施設）	普通

（注）・明朝体で示すプロジェクトは、都市計画との直接的関係が低いもの。

4) 整備構想

西目地区(拡大想定地区約 750ha)の整備構想図を以下に示します。

■西目地区 整備構想図



5-6 大内地区

「平成 18 年度 秋田県都市計画指導調査 由利本荘市」における「都市計画区域の解析結果」より、大内地区は、『本荘都市計画区域の拡大によって一体の都市としての整備・開発および保全を図る地域と考える。』とされています。大内地域のうち、この調査において拡大想定区域と設定された大内地区（約 2,000ha）について検討を行います。

1) 地区の現況と課題

①現況

1. 概況

- ・大内地区は、本荘都市計画区域の北側に位置し、南北を丘陵地に挟まれ、東西方向の谷沿いに開けた土地に田畑や市街地が広がっています。JR羽越本線の羽後岩谷駅の南側に旧大内町の中心市街地が形成され、商業、業務、住宅などが集積されています。一方、駅の北側は、駅と国道 105 号および日本海沿岸東北自動車道の大内 JCT の近接性を活用して新たな整備が進められ、駅前広場に隣接して、道の駅・温泉宿泊施設「ぼぼろっこ」・農産物直売所および由利本荘市総合体育館などが整備されています。

2. 面積

- ・拡大想定地区約 2,000ha のうち、可住地面積は 1,812.9ha で、これは想定区域面積の約 91%となっています。

3. 地域内人口・人口密度

- ・平成 17 年の地区内人口は 3,838 人で、平成 12 から 17 年にかけて、地区内の人口は 4,017 人から 3,838 人へと 179 人の減少で、減少率は約 4%です。
- ・平成 17 年の地区内人口密度は 2.1 人/ha で、都市計画区域として拡大する地区の人口密度としては非常に低密度であると言えますが、区域内の丘陵や農地面積の影響が大きいと考えられます。

4. 市街化の動向

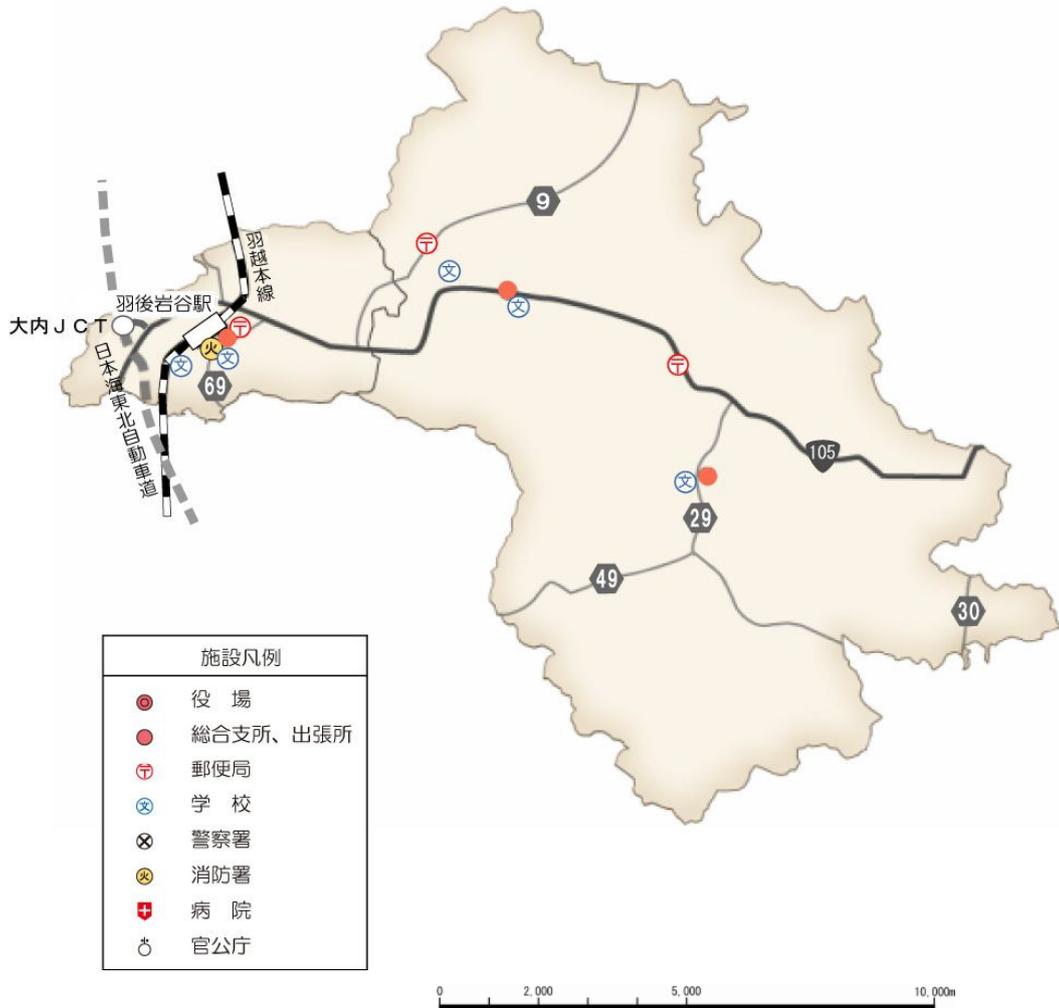
- ・過去 5 ヶ年(平成 13~17)の新築建物の状況を下表に示します。新築建物数は地区全体で 104 件で、そのうち住居系が約 89%と大半を占めています。

地域全体	104 件	—
住宅	93 件	89.4 %
商業	9 件	8.7 %
工業	2 件	1.9 %

5. 地域資源

- ・観光施設：温泉宿泊施設「ぼぼろっこ」、滝温泉
- ・文化財：秋田県指定有形文化財（彫刻）—木造聖観音立像
秋田県指定天然記念物—葛岡のカスミザクラ、堀切のイチョウ

6. 地域の概要



注) 拡大想定区域の具体的範囲が公表されていないため、大内地域全体を示す。地域全体面積 18,177ha のうち羽後岩谷駅や旧大内町の中心市街地を含む約 2,000ha が拡大想定区域と推測される。(全体の約 11%)

②地区の整備課題

1. 都市構造

- ・JR 羽越本線の羽後岩谷駅南側の旧道沿いに旧大内町の中心市街地が広がっていますが、駅の北側は駅前広場に隣接して、道の駅・温泉宿泊施設「ぼぼろっこ」・農産物直売所および由利本荘市総合体育館などが新たに整備されています。駅の北側は、国道 105 号や日本海沿岸東北自動車道・大内 J C Tからのアクセス利便性が高いため、広域からの利用を意識した拠点性の高いまちづくりが進められています。本荘都市計画区域との連担性を高め、由利本荘市の副次核として新たな都市機能の受け皿機能を果たし、活力とにぎわいのあるまちづくりを推進することが課題となります。

2. 土地利用

- ・中心市街地の他、丘陵の裾野には農家集落も点在し、近年では農家集落と中心市街地をつなぐアメーバー状に低密度な宅地が広がっています。地区内の人口が減少傾向を示しているなか、無秩序で低密度な市街地の拡大を抑制し、コンパクトで計画的な市街地整備と良好な居住環境の整備が課題です。
- ・国道 105 号が新たな都市軸となりつつあり、羽後岩谷駅の付近の国道沿道には商業業務施設の他、まとまりのある住宅地も形成されています。沿道景観に配慮した計画的な施設の立地誘導を図る必要があります。

3. 交通体系

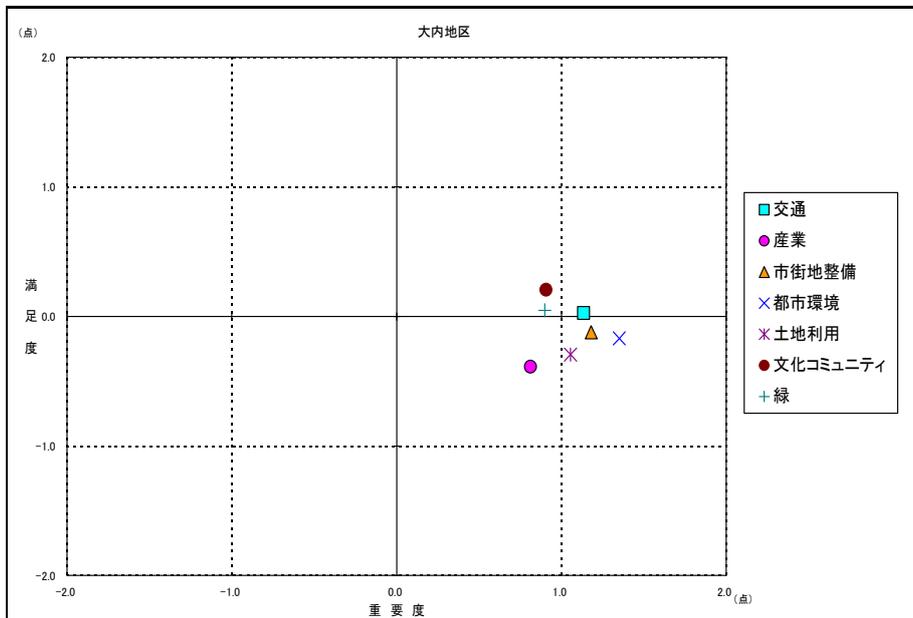
- ・羽後岩谷駅の北側地区は、国道 105 号が近接し、日本海沿岸東北自動車道の大内 J C Tも近く、交通利便性が非常に高い地区です。この条件を最大限利用しまちづくりへ活かすことが課題です。
- ・旧大内町の中心市街地は、十分な歩行者空間がない道路に奥行きのない市街地が線状に形成され、市街地内における道路ネットワークも未整備です。今後の高齢化社会を踏まえ、市街地内道路の安全性向上とネットワーク強化が課題となります。

市民の声：大内地区

～市民意向調査より～

- 「文化コミュニティ」「緑」「交通」に関しては、比較的満足度が高いが、「市街地整備」「都市環境」「土地利用」の項目に対して満足度が低く、かつ重要度が高いという意向が示されています。
- 個別の分野・施策別に特に満足度が低く、かつ重要度が高い項目として、以下のものが示されています。
 - ・ 産業分野
 - 商店街の活性化
 - ・ 市街地整備分野
 - 高齢者向け住宅の整備、歩道等のバリアフリー化、商業拠点の形成
 - ・ 都市環境分野
 - ごみ不法投棄対策
 - ・ 土地利用分野
 - 新規企業の誘致

由利本荘市の将来のまちづくりに関するアンケート
市民アンケート問6(地区番号10 大内地区) 分散図【総括】



※満足度 満足している:2点 やや満足している:1点 どちらとも言えない:0点 やや不満である:-1点 不満である:-2点として計上
※重要度 重要である:2点 やや重要である:1点 どちらとも言えない:0点 あまり重要ではない:-1点 重要でない:-2点として計上

2) 地区の目標とテーマ

①大内地区の目標

羽後岩谷駅南側の大内地区の中心市街地と本荘都市計画区域とは、JR羽越本線、国道105号、日本海沿岸東北自動車道（大内JCT～本荘IC）等の交通網による連絡が良く、地形的にも平坦な農地・集落でつながるため連担性が高く、県の調査においても本荘都市計画区域との一体的な整備、開発及び保全が望ましいとされています。

駅北側には、駅前広場に隣接して「由利本荘市総合体育館」「道の駅」「温泉宿泊施設」「農産物直売所」などが整備され、新たな都市機能拠点が形成されつつあります。駅北側地区は交通利便性を活かした本市の副次核エリアとして新たな都市機能の集積を促進することを目指します。また、駅南側の旧道沿いの中心市街地は、市街地内の道路網や歩行者空間等の改善による居住環境の整備を図ることを目標とします。

②テーマ

大内地区のテーマを以下のように設定します。

新たな都市機能の集積と良好な居住環境の整備

3) 地区の整備方針と整備構想

①地区の整備方針

大内地区（拡大想定区域約2,000ha）は、以下の5つのゾーンで構成します。

●新たな都市機能集積ゾーン

- ・羽後岩谷駅の北側地区には、総合体育館、温泉宿泊施設など市全域若しくはより広域的な利用者を対象とする新たな都市機能が集積し、交通利便性を活かした拠点性の高いまちづくりが進められています。今後も県の統合家畜市場の計画が進むなど、産業拠点としての位置付けも求められており、本市の副次核エリアとして魅力・求心力のある拠点の形成を図ります。

●居住環境整備ゾーン

- ・駅南側の中心市街地は、地形的制約もあり旧道沿いに奥行きのない市街地が線上に形成されています。市街地内道路の安全性向上や道路ネットワーク整備などの居住環境の整備を図ります。

●沿道活用ゾーン

- ・地域の幹線道路である国道105号は、羽後岩谷駅の200～300m北側をとおり、駅と国道の間に新たな都市機能拠点が形成されつつあります。このような状況の下、駅北側の国道沿道を沿道活用ゾーンとし、商業施設や業務施設など計画的な立地誘導・幹線道路沿道の有効利用を促進します。

●優良農地保全ゾーン

- ・市街地と丘陵地の間に広がる優良農地は、保全を図ります。

●自然環境保全ゾーン

- ・市街地の南北を囲むように広がる丘陵地は、自然環境保全ゾーンとして今後も保全を図ります。

②地区整備の重点目標

●新たな都市機能集積拠点の整備推進

- ・羽後岩谷駅の北側地区は、鉄道、国道、高速道路の交通利便性の良さを活かし、本市の総合体育館や道の駅、温泉宿泊施設、産地直売施設などの新たな都市機能の集積が進められています。これらの整備を推進し、本市の副次核として新たな都市機能拠点の形成を図ることを目標とします。

●市街地内の道路整備

- ・駅南側に既成市街地が形成されていますが、南北を丘陵に挟まれる地形的制約もあり旧道沿いに奥行きのない市街地構造となっており、市街地内の道路ネットワークが未整備で道路幅員・歩行者空間・安全施設などの整備水準も低いレベルにあります。高齢化社会の到来を踏まえ、市街地内道路の安全性の向上、ネットワークの強化などの道路の整備水準の向上を図ります。

●計画的整備と優良農地および緑の保全

- ・駅の北側地区は、日本海沿岸東北自動車道の大内 JCT により国道 105 号と高速道路が結ばれる恵まれた交通条件にあります。今後散発的な開発等が進む可能性があることから、これらを抑制し計画的な整備を図るため都市計画区域の拡大を検討するとともに、優良農地や丘陵地などは保全に努めます。

これら区域整備の目標の実現を図るため、総合発展計画の実施計画事業の内容を踏まえ、次の事業を行う方針です。

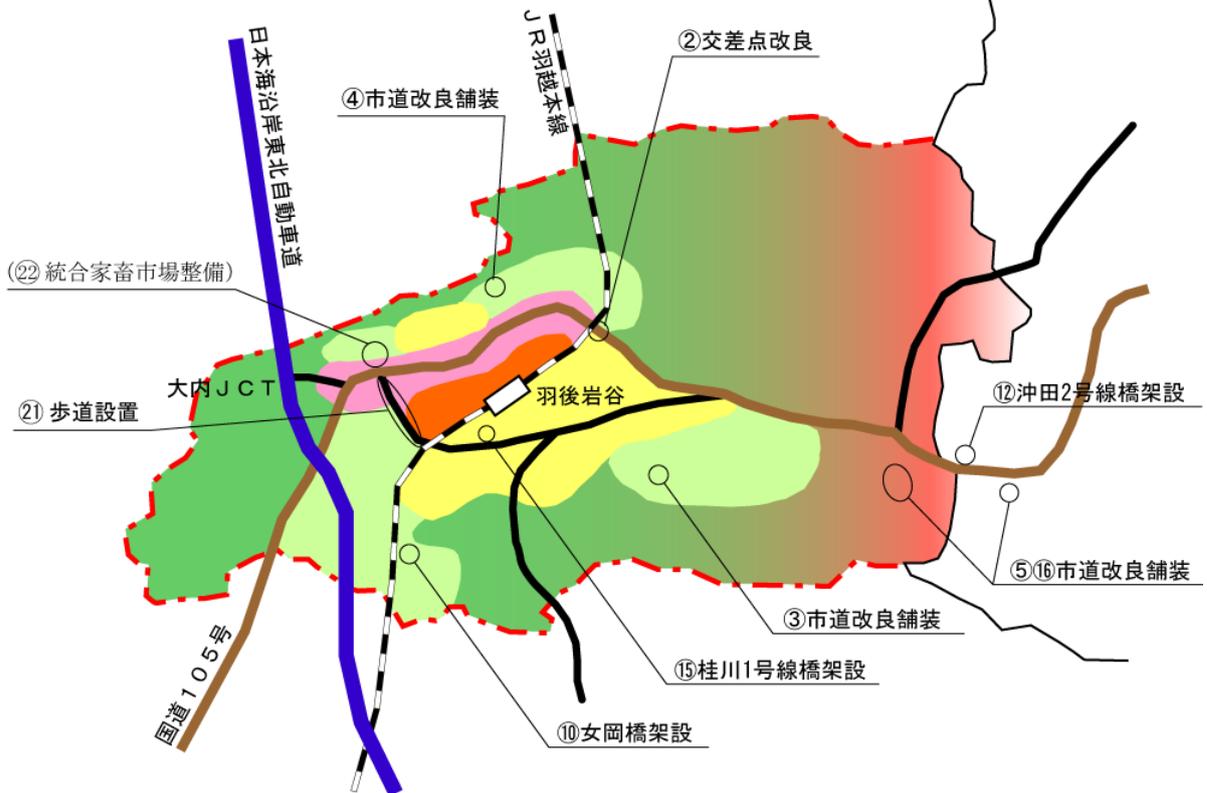
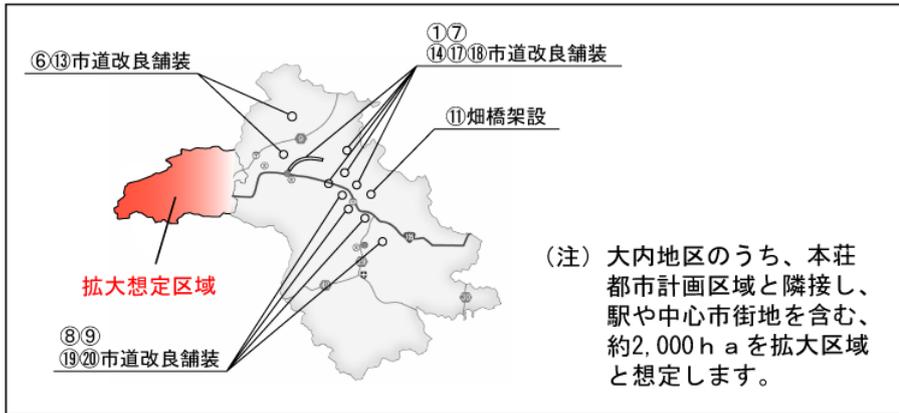
番号	事業名	事業の緊急性
①	市道及位長根山葛岡線 改良舗装事業	普通
②	市道岩谷黒川線 交差点改良	普通
③	市道新屋敷4号線 改良舗装	普通
④	市道岩谷麓西田表2号線 改良舗装	普通
⑤	市道小田野五輪沢松ノ木線 改良舗装	普通
⑥	市道下川テレビ塔線他1路線 改良舗装事業	高い
⑦	市道松本長坂葛岡線 改良舗装事業	高い
⑧	市道小又坂井沢新田線 改良舗装	普通
⑨	市道新田1号線 改良舗装	普通
⑩	市道牛寺中館線 女岡橋架設	普通
⑪	市道新田畑雄和線 畑橋架設	普通
⑫	市道大倉沖田2号線 沖田2号線橋架設	普通
⑬	市道高尾蒲田線 改良舗装	高い
⑭	市道平岫畑線 改良舗装(平岫畑橋架設事業含む)	普通
⑮	市道日渡与作線 桂川1号線橋架設	普通
⑯	市道大沢神社線 改良工事	普通
⑰	市道逆さイチョウ線 改良舗装	普通
⑱	市道葛岡上野線 改良舗装事業	高い
⑲	市道畑朴沢線 改良舗装	高い
⑳	市道芦渚墓地線 改良舗装事業	普通
㉑	市道大谷西野日渡線 歩道設置	普通
㉒	(仮称) 秋田県統合家畜市場	高い

(注)・明朝体で示すプロジェクトは、都市計画との直接的関係が低いもの。

4) 整備構想

大内地区(拡大想定地区約 2,000ha)の整備構想図を以下に示します。

■大内地区 整備構想図



(注) 明朝体で示すプロジェクトは、都市計画との直接的関係が低いもの



— 凡例 —

地区境界	沿道活用ゾーン	高速道路
新たな都市機能集積ゾーン	優良農地保全ゾーン	主要幹線道路
住環境整備ゾーン	自然環境保全ゾーン	幹線道路
		鉄道